



愛川ふれあいの村 今月の風景

2022年5月 自然のたより

さわやかで過ごしやすい季節になりました。村内ではメタセコイアをはじめ、イチヨウ、トウカエデなどの新緑が心を和ませてくれます。耳を澄ませば、キビタキやアオゲラの元気な鳴き声も聞こえてきます。嫌われ者の毛虫やイモムシたちが多く見られるようになるのもこの時期ですが、よく見てみると、つぶらな瞳やかわいらしい顔つきの個体も多いものです。植物も鳥も虫も、自然の全てが、今この時を精一杯生きているようで、なんだか勇気付けられます。天気の良い日には外へ出て、小さな命の不思議や自然の営みに目を向けてみてはいかがでしょうか。(袖山)



カマツカの花



ジャコウアゲハの舞



囀るキビタキ



えさを探すヒガラ



巣箱を発見シジュウカラ



ヤマガラ新居さがす



一筆啓上とホオジロ



考えるムクドリ



ヒゲナガオトシブミ



ミスジミバエ



ウスバシロチョウ



イチヨウの雄花



キンラン



ヤマツツジ



ホオノキ

トピックス ★みどりのキツツキ★

日本全国には12種類のキツツキの仲間が観察されていますが県内で観察されるのが5種類、愛川ふれあいの村では、その内3種類のキツツキと出会うことができます。スズメくらい大きさで秋から冬にかけてシジュウカラなど他の鳥の群れに混じって行動するコゲラ。ムクドリくらい大きさで白黒の鹿の子模様で頭とお腹の赤が目立つアカゲラ。そして今回のテーマのアオゲラです。3種類とも木の幹を移動し縦にとまり、丈夫でとがった嘴で樹皮をつつき昆虫などの餌をさがします。その中でもアオゲラは日本にしかない固有のキツツキで外国のウォッチャーのあこがれの鳥です。他のキツツキは白黒か黒色を基本としているのに対しアオゲラは緑色の翼と背中、頭頂の赤色という独特の緑色のキツツキです。早朝、村内を散策すると森の中からよく通る「ヒューイ ヒューイ」という声が聞こえてきます。口笛でまねをすると、どこからか、ちょっと重そうに飛ぶアオゲラがやって来て頭上を行ったり来たりします。自分のなわばりにやって来たライバルと間違えたか、彼女(彼氏)と間違えたか、ちょっと遊ぶのも楽しい。やがて誰もいないのを確認するとどこかへ飛んでいきます。

遠くで空洞の幹をつつく連続音のドラミングが聞こえてきます。これもなかなか素敵です。

(高梨)



生き物 ★アオムシ・イモムシ・毛虫★

チョウの幼虫はアオムシ、ガの幼虫はイモムシ・毛虫と言いますが、実はどちらも鱗翅目(りんしもく)という同じ仲間、フランスやドイツでは日本のように厳密にチョウとガを区別してはいないようです。

チョウはキレイ! ガは汚い! とか、アオムシはかわいいけどイモムシ・毛虫はいや! と言われることが多いですが、どちらも同じ仲間だと考えるとみんな愛しく思えてきませんか? お尻の突起や、目のような模様など、特徴で名前が分かるものもいますので、もし見つけたら、よく観察してみてください。(袖山)



旬 ★ 山 椒 ★

山椒はミカン科の植物で、花、実、葉、木の皮すべてが食べられます。愛川ふれあいの村には、「サンショウ」「カラスザンショウ」「イヌザンショウ」の3種類があります。「サンショウ」の若葉は木の芽とも呼ばれ料理に添えられ、実は香辛料として使われています。「カラスザンショウ」は同じ山椒でも食用にはなりません、アゲハチョウなどの食草になります。カラスが実を好んで食べることからこの名前がついたようです。「イヌザンショウ」もカラスザンショウと同じく人間の食用にはなりません。左右非対称にとげが生えているのがイヌザンショウの特徴です。

旬の「サンショウ」を見分けられるよう、香りや見た目の違いを知っているといいですね。(住友)



来月の見どころ
かたじけなくアツク
オトシブミの作る巻物のことを揺籃ようらん(ゆりかご)といいメスが産卵のために作ります。小学校の国語の教材として使われていたことがあり、子どもたちにとても人気のある教材でした。オトシブミは、種類によって使う植物が違っているのが不思議です。ふれあいの村にエゴノキがあります。葉に小さな食痕があればエゴツルクビオトシブミが見つかります。大きさは9ミリほどですが、新緑の緑色の葉の上に黒くて首の長い昆虫が、私たちが見つけるより先にやっと気付いたかというようにこちらを見ています。柔らかい葉を見つけると、切り落とさない程度に葉を切り、歩いて入念に寸法を測り先端の方から少し巻き産卵をします。その後は順序よく円筒形の巻物を作り上げます。揺籃が出来上がるまで約1時間かかります。生まれか幼虫は、葉を食べ成虫になると脱出します。こんな小さな虫がこんなに大きな知恵と根気強さがあることを本当に賢いと思います。(吉田)